

2021年 5月

あさかぜ保育園子育て支援だより 5月

5月は、1年の中で一番過ごしやすい季節ですよ。

周りを見渡せば山々は新緑でおおわれ、空を見上げれば澄んだ青空。

また、あちこちの家庭の庭では、鯉のぼりがやっと自分たちの季節がやってきたとばかりに堂々と泳いでいます。保育園も、子どもたちが作った鯉のぼりが園庭を華やかに飾って泳いでいます。

このような季節の中、保育園では新入・進級から一ヶ月が、あっというまに過ぎました。(これは、保育士だけでしょうか 笑) 涙のでていた子どもたちもやっと新しいクラス・担任にも慣れてきたかなと思っていたら・・・大型連休。楽しいはずの大型連休もコロナの為、自粛生活で家で生活が多かったかもしれませぬ。

やっと慣れた園生活も大型連休のせい、逆もどりでまたまた涙のお子さんもいらっしやいます。大人だって五月病ってありますものね。(病院などで使われる正式な病名ではないそうです)

子どもの涙は気長に受け止めてください。子どもにとって「泣く」というのは、自分の感情を表現することで、子どもの心の成長のために、とても大切なことなんですよ。

わかっています(若き日の私の声)。しかし、親にとっては大変なことなんですよね。出勤前に「いやだ〜」「いきたくない〜!」また4月の繰り返し。もう、いい加減に泣かずに保育園へ行ってくれる! これ、30数年前の我が家の状況です。

こうなると、「行きたくないのね。」「そっか、ちょっと抱っこしよっか。」とは、ならなかった我が家。頭にカッカと血がのぼり「さっさとして!」怒りで子どもの心を押さえつけてしまい、抱きかかえて車に乗せ保育園へ。

「先生、お願いします。」と言って、心の中は保育園に「早く慣らしてよ」と思いつつ出勤していたことを思い出します。迎えに行き、帰って連絡帳を読むと先生・我が子よ、ごめんなさいでした。先生は丁寧に連絡帳いっぱい、その日の様子を記入してくださっていました。(この私でも、子どもたちが成人するまで連絡帳はとっていました 笑) 以下は連絡帳の内容です。

- ・おかあさんが行かれた後も、しばらく涙がでていました。すぐに抱っこして「おかあさんと別れたくなかったんよね」「おかあさん仕事がすんだらおむかえ来てくれるよ」と話しかけながら、ゆったりとした時(数分だと思えます)を過ごしました。そうすると、自分から「あそぶ」と言って遊び始めましたよ。給食も時々、手もでていましたが自分で食べました。

これを読み、自分の身勝手さに反省しきり・・・。

怒りは、怒りで押さえつけるよりも、抱っこの方が、はるかに早く泣きやむ
んですよね。それも、穏やかな心で・・・。

なかなか、忙しく過ごしている時は気がつかない事が多いと思います。

保育園の先生とその日の様子を話したり、連絡帳をみたり、子どもの寝顔をみ
たりしたとき。 おかあさんの友だちと沢山お話をして心が満たされた時。
いわゆる自分がホットして心に余裕が持て穏やかな心の時に、ちょっと自分の子
育てを振り返りましょう。

そして、子どもを抱きしめてください。

押さえつけられた子どもの心は、きっと傷ついていたと思います。

ゆったりとおかあさんの体の温もりを「気持ちい〜」「ぼくって（私って）大切
にされているんだ」と子どもは感じると思います。

子どもとの関係は、いつでも気がついたときに、やり直せば、少々時間はかかっ
ても、必ず取り戻すことができると思います。傷ついた子どもの心も癒され、
きっと、心あたたまるような親子関係ができると思いますよ。

では、今月はここまで・・・。

子育てが終わったばあ〜ばより

